「アメリカ東海岸の建築を学ぶ旅」

久保田　匠慶

「建築を学ぶ唯一の方法は、何をおいてもそこに出かけて行ってそれを見ることである。」
――――フィリップ・ジョンソン（1906 - 2005）

私は 8/19 から 9/23 までの約一か月間、ニューヨークを中心にアメリカ東海岸の建築を見てまわりました。私は現在京都で建築を学んでいる大学生で、建築を志したのは小学五年生の頃でした。ニューヨークには建築を学ぶものであれば誰もが知っているような作品が数多く存在します。実際に建築を訪れることでそれらの本質を確かめたい、という思いで、今回遊学をさせていただきました。

■建築を学ぶということ

なぜ建築を「見る」ことが「学ぶ」ことなのか、と思われる方もいるでしょう。建築というのは、作品の中で人々が動き回る芸術、人が活動する空間を創る芸術です。写真の中の建築は、その建築のある一部分を切り取ったものに過ぎず、その空間性はいくら言葉を書き連ねても、一度の体験には敵わないでしょう。まさに「百聞は一見にしかず」というわけです。その空間性、周囲との関係のとり方、素材、人の動き、光と影、音の響き、スケール感、寸法、配置などを五感を使って体験（インプット）し、今後の設計活動（アウトプット）に生かしていくことが今回の旅の目標です。

マンハッタン、ブルックリンを歩き回り、列車、バス、レンタカーを駆使してボストンやピッツバーグまで行き、そこでたくさんの建築物と出会いました。そこでは、昔から知っていてきっといいものだと思っていたものから、見て始めて凄いと思ったものまで、私の主観的な感想は、自身の予想に反して様々でした。この旅は、自分がどういったものに惹かれるのか、ということを見つける旅でもありました。次のページから紹介するのは、私が訪れた数々の建築物の中でも、特に印象に残った建築です。その建築の本質の数%も語ることはできないと思いますが私の体験の一部を伝えることができれば幸いです。

時間がある時、描きたいと思う建築を訪れたときはスケッチをしました

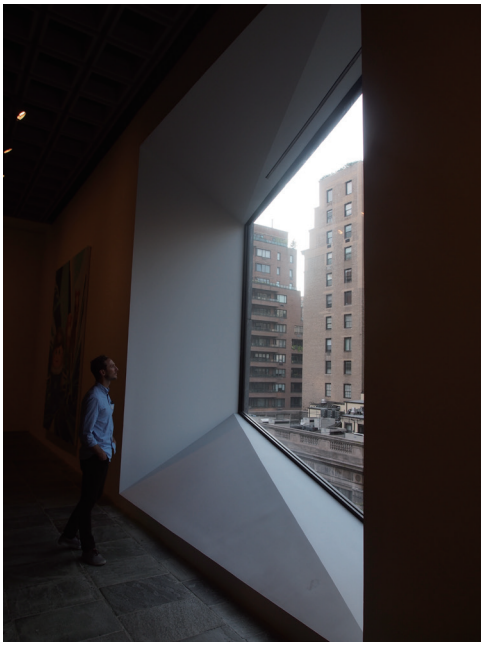
■ホイットニー美術館（1966）

ニューヨークの美術館、といえばニューヨーク近代美術館（MoMA）やグッケンハイム美術館、メトロポリタン美術館などの名前がまず挙がるのではないでしょうか。これらももちろん素晴らしい建築です。しかし、私にとってもっとも強く印象に残ったのはマルセル・ブロイヤー（1902 – 1981）設計のホイットニー美術館でした。ホイットニー美術館はセントラルパークの東側、多くの美術館が建つミュージアムマイルにあります。外観は積み木がだんだんとせり出したような形状に台形で斜めを向いた個性的な窓がついている、というシンプルながらも街を歩いてたら目に入らずにはいられないデザインとなっています。石が張られた外観となっているため、重いものが迫り来るような印象を受けました。中に入ると、まず円形の照明がびっしりと並んだ天井に迎えられます。この美術館には二つのエレベーターがあるのです　が、メインの動線（人が歩く道）は階段です。ここで、先ほどのだんだんとせり出す外観によって、内側の階段は、各階層ごとに異なる表情を見せます。低層では、窓から外が見えますが、中層には美術品が展示され、踊り場には石のベンチがあります。上層まで窓はなく、石の壁が続きますが、吹き抜けとなっており、最上階では上から光が差し込みます。手すりや階段の蹴上にもこだわりを感じるデザインが見られ、来館者を疲れさせない、飽きさせない工夫が詰め込まれていることがわかりました。実際、歩いてて全く苦にならなかったのと、階段自体が楽しくて一度全体を回ってからもう一度階段だけ上から下まで歩きました。展示空間はロの字のコンクリートが連続する天井が空間にアクセントを与え、ホワイトキューブと呼ばれる白い壁、天井に囲まれた近年の美術館との違いを感じました。西側の少し北を向いた窓からは直射光を避けつつも豊かな光が入り込んで空間の豊かさを感じました。建築家であり家具デザイナーでもあるブロイヤーらしい、使う人のことを深く考えた建築だと感じました。

エントランス

階段と踊り場のベンチ

展示空間
この日はジェフ・クーンズ展が行われていた。



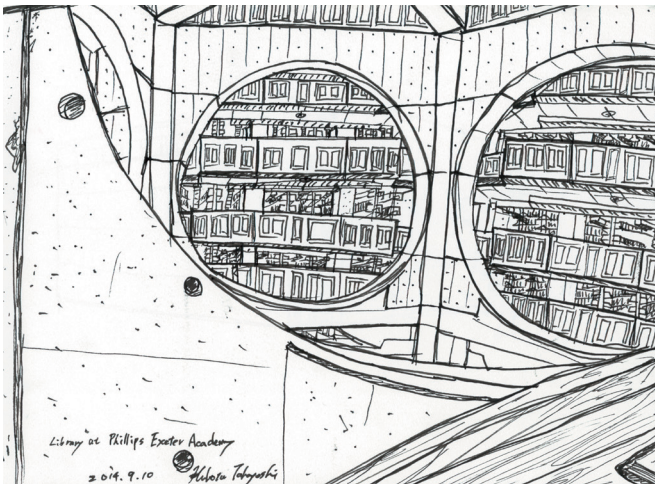
■エクセター図書館 (1972)

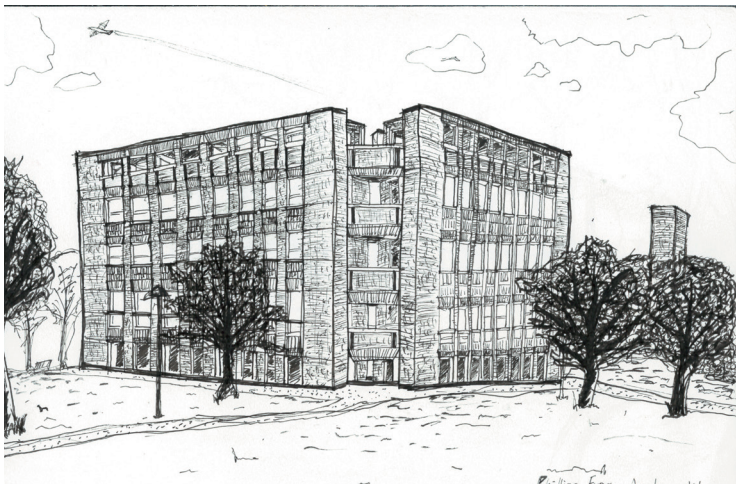
私はニューヨークだけではなく、ボストンやフィラデルフィア、ピッツバーグなどにも行きました。ボストンからさらに列車で北に向かったところにフィリップ・エクセター・アカデミーという高校があります。ここは、Facebookの創始者であるマーク・ザッカーバーグや、「ダ・ヴィンチ・コード」の作者であるダン・ブラウンの母校でもあります。のどかで小さな町の中にある高校の図書館がアメリカの偉大な建築家ルイス・カーンの設計したエクセター図書館です。

学生寮があるからでしょうか、この高校はとても広く、大学ではないかと思うほどです。道路からは木々によって隠れるように、その図書館は佇んでいました。外から見るとレンガ積みの４つの壁に囲まれていて、その中にコンクリートの構造がある。そんな外観です。中に入ると真ん中に大きな吹き抜けがあってその周りに書架、閲覧席がある、というふうな構成になっています。吹き抜けはコンクリートで作られた４つの円に囲まれ、最上部には巨大な梁があり、窓から入る光に照らされ強い存在感を放っています。この空間に入ったし瞬間、木とコンクリートの調和と、そのダイナミズムに私は圧倒されました。三階からは、同じように書棚が並びますが、吹き抜けを囲んでいる大きなコンクリートの円によって、階ごとにその表情は違ったものになっています。私は無性にドキドキしながら、そこから吹き抜けをずっと眺めていました。建築の中に立ってここまで緊張するというのは、私にとって初めての体験でした。一方、真ん中の神がかった空間とは対照的に、外側の閲覧席は、本を読む人が心地よく読書ができるような暖かい光の入り込む空間になっていました。その対照的な二つの空間を、シンプルな構成で一つの建築に内包させているカーンの凄さを体感した建築でした。

二階より吹き抜けを見上げる

閲覧スペース





■ニューヨークという都市について

ニューヨークは最先端の街というイメージを持たれる方が多いでしょうが、思ったより古い街です。石造りやレンガ造りで装飾が施された古い建物が今でもたくさん残っています。そしてその古い建物のすぐ隣にガラス張りのオフィスビルが建っていたりします。ニューヨークはいろんな時代の建築が混在し、今も新しい建築が生まれ続けている。それは昔も今も、マンハッタンでは建築に「垂直性」を求めているからではないかと思いました。小さな土地の経済性を高めるために高さを求める。その方針が今も昔も根本的にあまり変わっていないからこそ、古い建物も使われ続け、常に新しい建物が増え続けるのではないか。ニューヨークの他の都市と異なる魅力として、「未だに発展途上」というのがあると思います。

ニューヨークにはセントラルパークをはじめ、数多くの公園緑地があります。また、オフィスビルの前に広場が作られたり、ブロードウェイによって、三角形の広場ができています。ビル群に囲まれた人々は、積極的にこのような広場を都市のオアシスとして利用していました。都市に余白をつくることが、今日までのニューヨークを支えてきたのではないかと思いました。ニューヨークでは、高架貨物線跡地を空中公園として再利用したハイラインやブルックリン・ブリッジパークなど、現在も魅力的な都市の余白が生まれ続けていました。

エンパイア・ステート・ビルより

タイムズスクエア

五番街アップルストア

ハイライン

スモーガスバーグ

ブルックリンナイトバザー

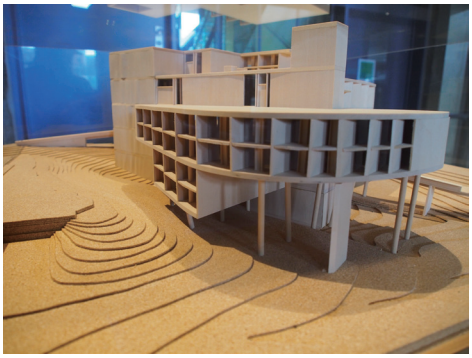
■ブルックリンについて

私はブルックリンの宿に宿泊していました。ブルックリンは低所得者層が多く、かつては犯罪が絶えない街でした。しかし現在は、ブルックリンの西部、ウィリアムズバーグやダンボは若者が集まり、安全で新しい文化の発信地となっていました。新しい建物が次々と建設され、元からブルックリンにあるグラフィティなどのヒップホップ文化を継承した、マンハッタンとは異なる生活がそこにはありました。毎週末、イーストリバー沿いの公園でウィリアムズバーグという食べ物の屋台が集まったイベントや、工場を再利用したブルックリンナイトバザーなど、ブルックリンだけでなくニューヨーク中から人が集まるイベントが行われており、今後もブルックリンは良い方向に発展していき、新しい建築がこれから生まれていくのではないかと思いました

■建築と人

アメリカで建築を訪れた際、設計者の写真が飾られ、その建築の模型と説明が展示されていることが多かったです。MoMA には建築が美術品として扱われており、建築物そのものを大胆に利用したインスタレーション（一時的にその場所のためにつくられる芸術作品）も数多く見られました。日本よりも建築や建築家が人々にとって身近なものであるという印象を受けました。また、古い建築のリノベーション（改修）が数多く存在し、古いものをすぐに壊さず新しいより良い使い方を提案し大切にしているのだと感じました。

ルイス・カーン（イェール大学）


カーペンター視覚芸術センターの模型

ガラスの家が霧に包まれるインスタレーション

モーガンライブラリーの光と色のインスタレーション

■海外に住むということ

私は、今回の遊学が初めての海外渡航でした。英語もろくに話せない状態で思い切って飛び込んだのは良かったものの、最初の数日はお店で料理を注文するのもままならず、日本に帰りたいとさえ思いました。しかし、一ヶ月暮らしてみて、ニューヨークが思っていたより安全な街で人々が優しいことが分かり、耳が慣れたのか相手が何を伝えようとしているのかは理解できるようになったことで、英語が話せたら世界は広がる、ということに気がつきました。

ニューヨークでは素敵な出会いがたくさんありました。私が宿泊していたのはブルックリンの日本人ゲストハウスなのですが、様々な年齢の方が宿泊されていて、一緒に出かけたり、夜、みんなでお話したりしたことも、楽しかっただけでなく、自分にとって良い経験になったと思います。またニューヨーク岐阜県人会会長の成田敦様の紹介で、ニューヨーク県人会の集まりに参加させていただきました。ニューヨークで働いている方々のお話を聞き、将来的に海外で働くということも視野に入れていいのだと感じ、将来についてもっと考えなくてはならないと思いました。ニューヨークでは、様々な年代、職業、の方とお話することで、自分の知らない世界を知り、考え方や価値観の違いに気づき、建築以外のことも学ぶことが出来たと思います。

■今後の目標

ニューヨークで過ごした一ヶ月は、おそらく死ぬまで忘れない刺激的な一ヶ月でした。短期間でこれほど多くの建築を見たことは今までなく、実はここがスタートラインなのではないかとさえ今は思います。今回の遊学で得たものは経験であり、今は満足に言葉にできません。しかし、自分の中で確実に何かは変わっており、今後の設計活動でこの経験を自分の作品にアウトプットして、確かめていきたいと思います。

現在私は大学の卒業設計に取り組んでいます。このニューヨークでの体験を存分に生かして大学生最後の作品制作に取り組んでいきたいと思います。また今回の遊学で海外への興味がわいたので、英語を勉強し、今後も世界中の建築と文化に出会うため、積極的に旅に出ようと思います。

ニューヨークには、どんなことを志す人にとっても心を惹きつける「何か」が存在すると思います。自分にとってそれは建築であり、今回大変貴重な機会をあたえてくださった岐阜県青少年育成県民会議の皆様、ご支援いただいたハビックス社様、滞在中お世話になったニューヨーク岐阜県人会の皆様、ニューヨークで出会った全ての方に心から感謝します。ありがとうございました。

久保田　匠慶（Kubota Takayoshi）Email:kubotak0925@gmail.com

■アメリカで訪れた建築

〈　ニューヨーク　〉

ニューヨーク近代美術館（MoMa) / 谷口吉生他

フラットアイアンビル　/ ダニエル・バーナム

ロックフェラー・センター　/ レイモンドフッド

ハイライン　/ ディラー・スコフィディオ + レンフロ

IAC 本社ビル　/ フランク・O・ゲーリー

100　Eleventh Avenue / ジャン・ヌーヴェル

エンパイアステートビル　/ シュリーブ・ラム・アンド・ハーモン

クーパー・ユニオン・アカデミック・ビル　/ モーフォシス

メトロポリタン美術館　/ リチャード・モリス・ハント

ブルックリンブリッジ　/ ジョン・オーグスタス・ローブリング＆ワシントン・ローブリング

回転木馬のためのガラスパビリオン　/ ジャン・ヌーベル

バークレイズ・センター　/SHoP アーキテクツ

トリニティ教会

１ワールドトレードセンター /　デイヴィッド・チャイルズ

4 ワールドトレードセンター　/ 槇文彦

アメリカ自然史博物館

ニューヨーク近代美術館

クーパー・ユニオン・アカデミック・ビル

リンカーンセンター

シーグラムビル

メトロポリタン歌劇場　/ ウォレス・ハリソン

エイブリー・フィッシャー・ホール　/ マックス・エイブロモビッツ

ニューヨーク州立劇場　/ フィリップ・ジョンソン

ハースト・タワー　/ ノーマン・フォスター

ニューヨーク・タイムズビル　/ レンゾ・ピアノ

CBS ビル / エーロ・サーリネン

ニューヨーク By ゲーリー / フランク・O・ゲーリー

グランドセントラルターミナル　/ ワレン＆ウェットモア

ディア・ビーコン　/ ロバート・アーウィン＆オープン・オフィス

グッケンハイム美術館　/ フランク・ロイド・ライト

シーグラムビル　/ ミース・ファン・デル・ローエ

レバーハウス　/ SOM

ソニービル（旧 AT&T ビル）　/ フィリップ・ジョンソン

トランプタワー　/ デア・スカット

9.11 メモリアル・パヴィリオン　/ スノヘッタ

グッケンハイム美術館

シナゴーグ・フォー・ジ・アーツ
ニュー・ミュージアム　/ SANAA
ニューヨーク公共図書館　/ カレール＆ヘイスティングス
ホイットニー美術館　/ マルセル・ブロイヤー
FDR　フォー・フリーダムズ・パーク　/ ルイス・カーン
クライスラービル　/ ウィリアム・ヴァン・アレン
モーガンライブラリアンドミュージアム　/ レンゾ・ピアノ
クロイスターズ美術館

〈　ボストン　〉
ボストン市庁舎　/ コールマン、マッキンネル＆ノウルス
ボストン公共図書館増築　/ フィリップ・ジョンソン
ジョン・ハンコックタワー　/ I.M. ペイ
エクセター図書館　/ ルイス・カーン
カーペンター視覚芸術センター　/ ル・コルビュジェ
ハーバード大学サイエンスセンター　/ ホセ・ルイ・セルト
ガンド・ホール　/ ジョン・アンドリュース
アーサー・M・サックラー美術館 / ジェームズ・スターリング
ベイカー・ハウス / アルヴァ・アアルト
MIT チャペル　/　エーロ・サーリネン
スタタ・センター　/ フランク・O・ゲーリー
シモンズホール　/ スティーブン・ホール
MIT メディアラボ　/ 槇文彦

〈　ニューヘイヴン・ニューキャナーン　〉
イェール大学アートギャラリー　/ ルイス・カーン
イェール大学英国美術研究センター　/ ルイス・カーン
バイネッキ図書館　/ SOM
ホッケーリンク　/ エーロ・サーリネン
イェール大学建築棟　/ ポール・ルドルフ
ガラスの家　/ フィリップ・ジョンソン

〈　フィラデルフィア・ピッツバーグ　〉
ペンシルバニア大学リチャーズ医学研究所　/ ルイス・カーン
アネンバーグ・パブリックポリシーセンター　/　槇文彦
キンメル舞台芸術センター　/ ラヴィエル・ヴィニョリ
ブリンモア大学女子寄宿舎　/ ルイス・カーン
落水荘　/ フランク・ロイド・ライト
ケンタック・ノブ　/ フランク・ロイド・ライト

ニュー・ミュージアム

ハーバード大学製図室（ガンドホール）

バイネッキ図書館

落水荘